

第9章 家庭

第1	教科目標，評価の観点及びその趣	家 - 1
第2	各科目の評価の観点の趣旨	家 - 1
第3	必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	家 - 2
	家庭基礎	家 - 2
	家庭総合	家 - 6
	生活技術	家 - 13
第4	単元の評価に関する事例	家 - 19
	家庭総合	家 - 19

第9章 家庭

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに，生活に必要な知識と技術を習得させ，男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
家庭や地域の生活について関心を持ち，その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域の生活について見直し，課題を見付け，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し，家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

第2 各科目の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
家庭基礎	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ち，その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などについて見直し，課題を見付け，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
家庭総合	人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ち，その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などについて見直し，生活課題を主体的に解決するために思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。
生活技術	人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などについて関心を持ち，その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などについて見直し，生活課題を主体的に解決するために思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などに関する基礎的・基本的な技術を体験を通して身に付けている。	人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などに関する基礎的・基本的な知識を体験を通して身に付けている。

第3 必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

家庭基礎

1 目標

人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などについて関心をもち，その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などについて見直し，課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準

家庭基礎においては，学習指導要領の内容の(1)，(3)，(4)の大項目を内容のまとめりとし，内容の(2)については，ア，イなどの中項目を内容のまとめりとして，評価規準を作成した。

(1) 人の一生と家族・福祉

【学習指導要領の内容】

人の一生を生涯発達の視点でとらえ，家族や家庭生活の在り方，乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ，男女が相互に協力して，家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。

ア 生涯発達と家族

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ，青年期の課題を踏まえて，男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。

イ 乳幼児の発達と保育・福祉

乳幼児の心身の発達と生活，親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ，子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに子どもの健全な発達のために，親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

ウ 高齢者の生活と福祉

高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解させ，高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

【「(1) 人の一生と家族・福祉」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人の一生の営みとしての家族や家庭生活，乳幼児及び高齢者の生活と福祉などに関心をもち，家族や保育・福祉の学習を自分の問題としてとらえ，意欲的に学習活動に取り組んでいる。	生涯発達の視点から，青年期の課題を踏まえて，家庭生活の在り方，乳幼児及び高齢者の生活，家族・社会の果たす役割などについて課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	家族や家庭生活について調査・研究などができるとともに，交流などの実践的活動を通して，乳幼児や高齢者と適切にかかわるために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生涯発達と家族，乳幼児の発達と保育・福祉及び高齢者の生活と福祉について総合的に理解し，人の一生の営みを自分の問題としてとらえるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(1) 人の一生と家族・福祉」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> 人の一生を生涯発達の視点でとらえ，家族・家庭生活の在り方や生活設計などについて考えようとしている。 家事労働などがかかわらせて各自が担う家庭での役割について関心をもち，男女が協力して家庭や社会を築くことを目指して，学習活 	<ul style="list-style-type: none"> 自立や男女の平等と相互の協力などの青年期の課題について具体的に考え，自己の生活設計ともかかわらせながら考えを深めている。 現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などを取り上げ，固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力し 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などについて，具体的な事例を調査・研究したり，発表したりすることができる。 固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について意見交換したり，充実した人生を 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の考え方に立ち，各ライフステージごとの特徴と課題について理解している。 現代の家族の特徴及び家庭の機能について理解している。 乳幼児の心身の発達と生活，親の役割と保育及び福祉について具体的に理解している。
---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> 動に取り組んでいる。 ・乳幼児の心身の発達の特徴に関心を持ち、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどのようにかかわったらいかなど、保育の在り方について具体的に考えようとしている。 ・高齢者の心身の特徴と生活に関心を持ち、高齢者を肯定的にとらえようとしている。 ・子どもの健やかな発達や高齢者を支える地域及び社会の福祉サービスの在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> て築く家族・家庭について考えを深めている。 ・子育ての意義について考え、子育てを通して得られるものについて考えを深めている。 ・現代の子どもが育つ環境の変化などについて課題を見付け、それらの原因及び解決について考え、社会全体で支援することの必要性について思考を深めている。 ・高齢者の心身の特徴の一般的な変化と個人差に気付き、高齢者の生活の実態と課題について具体的に考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 送るための生活設計の検討ができる。 ・事例研究や実践的な学習を通して、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴と生活及び福祉について具体的に理解している。
--	---	---	--

(2) 家族の生活と健康

【学習指導要領の内容】

家族の食生活、衣生活及び住生活に必要な基礎的な知識と技術を習得させ、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。

ア 食生活の管理と健康

栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。

【「(2) 家族の生活と健康」 ア 食生活の管理と健康 の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
栄養、食品、調理、食品衛生などに関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	栄養、食品、調理、食品衛生などについて理解し、家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(2) 家族の生活と健康」 ア 食生活の管理と健康 の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族の栄養と食事について、各自の食生活を振り返って考えようとしている。 ・主な食品の特質や調理法などに関心を持ち、調理実習・実験に取り組んでいる。 ・安全で衛生的な食生活について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養的にバランスのとれた食事について、日常の食事と関連付けて具体的に考えている。 ・現代の食生活の問題点について思考を深めている。 ・調理の安全・衛生について具体的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養的特質と調理上の性質を家族の献立作成に生かすことができる。 ・調理の基礎技術を身に付けている。 ・配膳や食事のマナーを踏まえ、楽しく食事する工夫ができる。 ・安全と衛生に配慮した調理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養的にバランスのとれた食事の重要性や栄養素の種類と機能、各ライフステージごとの栄養的な特徴を理解している。 ・栄養素等摂取の基準や食品群別摂取量の目安を日常の食事と関連付けて理解している。 ・主な食品の栄養的特質と調理上の性質を理解している。 ・食品の腐敗や変敗、食中毒、食品添加物などについて理解している。
--	--	---	---

イ 衣生活の管理と健康

【学習指導要領の内容】

被服の機能と着装，被服材料，被服管理などに関する基礎的な知識と技術を習得させ，家族の衣生活を健康で快適に営むことができるようにする。

【「(2) 家族の生活と健康」イ 衣生活の管理と健康の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
被服の機能と着装，被服材料，被服管理などに関心をもち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家族の衣生活について課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	家族の衣生活を健康で快適に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	被服の機能と着装，被服材料，被服管理などについて理解し，家族の衣生活を健康で快適に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(2) 家族の生活と健康」イ 衣生活の管理と健康の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能に関心をもち，健康で快適な着装について考えようとしている。 被服材料の性能や改善に関心をもち，被服材料の選択や被服の管理について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能と着装について家族の衣生活とかわらせて具体的に考えている。 用途や着用目的に合った被服材料の選択と被服管理について具体的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 着用目的に応じて健康的で快適な着装ができる。 用途や着用目的に合った被服材料の選択や被服材料に応じた洗濯ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服の保健衛生的な機能と社会的機能について理解している。 被服材料の種類と特徴及び着心地や手入れ・保管にかかわる性能を理解している。 洗剤の働きと汚れが落ちる仕組み，乾式洗濯と湿式洗濯の特徴や利用上の注意について理解している。 資源の有効利用の観点に立った被服計画の必要性を理解している。
--	---	--	---

ウ 住生活の管理と健康

【学習指導要領の内容】

住居の機能，住生活と健康・安全などに関する基礎的な知識と技術を習得させ，家族の住生活を健康で快適に営むことができるようにする。

【「(2) 家族の生活と健康」ウ 住生活の管理と健康の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
住居の機能，住生活と健康・安全などに関心をもち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家族の住生活について課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	家族の住生活を健康で安全かつ快適に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	住居の機能，住生活と健康・安全などについて理解し，家族の住生活を健康で安全かつ快適に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(2) 家族の生活と健康」ウ 住生活の管理と健康の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能に関心をもち，家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択について考えようとしている。 健康で安全かつ快適な住生活を営むための方 	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全かつ快適な住生活を営むための方法について具体的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例研究などを通して，家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができる。 実験・実習などを通して，健康で安全かつ快適な住まい方について 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の生活の場としての住居の基本的な機能を理解している。 健康で安全かつ快適な住まい方や計画的な維持管理の必要性について理解している。
--	---	--	--

法を考えようとしている。 ・バリアフリーの住宅、地域の住環境について関心を持ち、考えようとしている。	検討できる。	
---	--------	--

(3) 消費生活と環境

【学習指導要領の内容】

家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、消費者として責任をもって行動できるようにする。

ア 家庭の経済と消費

家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。

イ 消費行動と環境

現代の消費生活と環境とのかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直すことができるようにする。

【「(3) 消費生活と環境」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
家庭の経済と消費、消費行動と環境などに関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費生活と環境のかかわりについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	実践的・体験的な学習活動を通して調査・研究し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の経済と消費、消費行動と環境について理解し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(3) 消費生活と環境」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済生活、社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任について関心を持ち、適切な意思決定や消費行動について考えようとしている。 ・消費生活と環境とのかかわりについて関心を持ち、環境負荷の少ない生活について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者として主体的に判断できるようになるために、消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任について考えを深めている。 ・環境負荷の少ない生活を目指し、具体的な事例を通して生活意識や生活様式を見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に伴う家計の管理や消費生活の課題について具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。 ・環境負荷の少ない生活を目指し、消費生活と環境とのかかわりについて検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の管理、家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解している。 ・消費生活の現状と消費者の権利と責任について理解している。 ・消費生活と環境とのかかわりについて理解している。
---	---	--	---

(4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

【「(4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容の(1)～(3)までの学習の発展として「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」について関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	生活の中から課題を見いだし、課題解決に向けて思考を深め、適切に判断している。	目標を明確にし、計画を立てて実践できる。	「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解している。

・扱う内容によって、評価規準が異なるため、具体例は示していない。

家庭総合

1 目標

人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ，生活課題を主体的に解決するとともに，家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などについて関心をもち，その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などについて見直し，生活課題を主体的に解決するために思考を深め，適切に判断し，工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準

家庭総合においては，学習指導要領の内容の（１），（２），（３），（５），（６）の大項目を内容のまとめりとし，内容の（４）については，ア，イなどの中項目を内容のまとめりとして，評価規準を作成した。

(1) 人の一生と家族・家庭

【学習指導要領の内容】

人の一生を生涯発達の視点でとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させ，男女が相互に協力して，家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させるとともに，各自の生活設計を考えさせる。

ア 人の一生と発達課題

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ，青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて認識させる。

イ 家族・家庭と社会

家庭の機能と家族関係，家族・家庭と法律，家庭生活と福祉などについて理解させ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわり，男女が協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。

ウ 生活設計

青年期の課題を踏まえ，生活設計の立案を通して，自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせる。

【「(1) 人の一生と家族・家庭」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
家族や家庭生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会，生活設計などに関心をもち，男女の平等と相互の協力の観点から意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	生涯発達の視点から，青年期の課題を踏まえて家族・家庭の在り方，各自の将来の生活構想などについて課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	事例研究や発表などを通して，家族・家庭の在り方や生活設計などについて検討するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生を生涯発達の視点でとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解し，現在及び将来の生活の在り方を考えるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(1) 人の一生と家族・家庭」の評価規準の具体例】

・人の一生を生涯発達の視点でとらえ，各ライフステージの特徴と課題，青年期の課題について考えようとしている	・自立や男女の平等と相互の協力などの青年期の課題について，自己の生き方とかわらせて考えを深めている。	・現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などについて，具体的な事例を調査・研究したり，発表したりするこ	・生涯発達の考え方に立ち，各ライフステージごとの特徴と課題について理解している。 ・現代の家族の特徴及び
--	--	---	---

<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の家族の特徴，家庭の機能と家族関係，職業労働と家事労働，家族・家庭と法律などに関心をもち，これからの家族の在り方や社会とのかかわりについて考えようとしている。 ・家族・家庭と法律，家庭生活と福祉などに関心をもち，社会制度としての家族や福祉の在り方，ボランティア活動について考えようとしている。 ・自分らしいライフスタイルや生活にかかわる価値観，生活時間の在り方などを踏まえ，将来の生活設計の立案に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が担う家庭での役割，親子関係や夫婦関係などの家族関係の在り方について，具体的な事例や演習を通して考えを深めている。 ・男女がともに家庭生活の責任を果たし，人間らしい働き方をするための課題について考えを深めている。 ・家族に関する法律をもとに，社会制度としての家族について考えている。 ・生活設計の立案を通して，高校生活の課題，自己の生き方，将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えを深めている。 	<p>とができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について意見交換ができる。 ・青年期の課題を踏まえて，充実した人生を送るための生活設計を立案することができる。 	<p>家庭の機能について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業労働と家事労働の意義や特徴，現状と課題について理解している。 ・家族に関する法律や社会保障制度の趣旨と概要，社会福祉や地域社会の役割，福祉サービスの適切な利用の仕方などについて理解している。 ・ライフスタイルや生活にかかわる価値観の多様化について理解している。 ・充実した人生を送るためには，生活時間の配分や計画化及び将来の生活への目標や展望が重要であることを理解している。
---	---	--	---

(2) 子どもの発達と保育・福祉

【学習指導要領の内容】

子どもの発達と保育，子どもの福祉などについて理解させるとともに，子どもの健全な発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について認識させ，保育への関心をもたせる。

ア 子どもの発達

母体の健康管理と子どもの誕生，子どもの心身の発達と特徴及び子どもの生活と遊びについて理解させるとともに，子どもの発達と環境とのかかわりについて認識させ，子どもと適切にかかわることができるようにする。

イ 親の役割と保育

親の役割と子どもの人間形成及び親の保育責任とその支援について理解させ，子どもを生き育てることの意義について考えさせるとともに，家庭における親の役割の重要性について認識させる。

ウ 子どもの福祉

子どもが健全に育つことをねらいとした児童福祉の基本的な理念について理解させ，子どもを取り巻く環境の変化や課題について考えさせる。

【「(2) 子どもの発達と保育・福祉」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>子どもの発達と保育，子どもの福祉など，子どもの健全な発達と環境とのかかわりに関心をもち，子どもと適切にかかわろうとしている。</p>	<p>子どもの心身の発達や生活と遊び，親の役割と子どもの人間形成などについて，現代の家庭や地域の生活を見つめて課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。</p>	<p>実践的・体験的な学習活動を通して調査・観察・研究し，子どもと適切にかかわることができたり，子どもの健全な発達を支援するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。</p>	<p>子どもの発達と保育，子どもの福祉などについて理解し，子どもの健全な発達と支える親や社会の果たす役割について認識するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p>

【「(2) 子どもの発達と保育・福祉」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達とその特徴を，子どもが育つ環境とかがわらせて考えようとしている。 ・乳児期の「愛着」の形成や子どもの人格形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・母体の健康管理や生命の尊さに関する諸課題について，青年期の過ごし方とかがわらせて考えている。 ・現代の子どもの心身の 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達，生活と遊びについて調査・観察したことをまとめたことのできる。 ・保育所や幼稚園等での 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期が人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることと，環境の重要性について理解している。 ・子どもの生活の概要と
---	--	---	--

<p>にかかわる親の役割について考えようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを生き育てることの社会的意義や子育てを通して得られるものについて考えようとしている。 親への社会的支援の在り方や支援策について考えようとしている。 近年の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え、よりよい環境を保障するための親や家庭、社会が果たす役割を考えようとしている。 	<p>発達について、生活や遊びなど近年の少子社会における子どもを取り巻く環境の変化などを視野に入れ課題を見付け、それらの原因及び解決を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを生き育てることの意義、乳幼児期の重要性と子どもの人間形成について、親としての態度などを考えている。 育児不安や児童虐待などの事例を踏まえ、それらの原因及び解決を考えている。 子どもにとってよりよい環境について考えている。 	<p>実習で、子どもと適切にかかわることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例研究やロールプレイングなどを通して、子どもに対する親の働きかけの方法や親としての態度などをまとめたり、発表したりすることができる。 児童福祉の具体的な法律と制度の趣旨や概要について調査・研究し、まとめたり、発表したりすることができる。 子どもを取り巻く環境の変化や課題について調査・研究し、子どもが健全に育つための環境についてまとめたり、発表したりすることができる。 	<p>遊びについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間形成の基礎となる乳幼児期は、親による働きかけが重要であることを理解している。 親が第一義的な保育責任を果たすための社会的支援の在り方や支援策について理解している。 子育てを通して親自身も人間的に成長することに気付いている。 「児童福祉法」、「児童憲章」、「児童の権利に関する条約」などの趣旨や概要から、児童福祉の基本的な理念について理解している。 近年の子どもを取り巻く環境の変化や課題について理解している。
--	--	---	---

(3) 高齢者の生活と福祉

【学習指導要領の内容】

高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解させるとともに、介護の基礎を体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる。

ア 高齢者の心身の特徴と生活

加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させるとともに、高齢者の生活の現状と課題について認識させ、高齢者との適切なかわりについて考えさせる。

イ 高齢者の福祉

高齢社会の現状と課題について考えさせ、高齢者福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスについて理解させる。

ウ 高齢者の介護の基礎

日常生活の介助を体験的に学ぶことを通して、高齢者介護の心構えやコミュニケーションの重要性について認識させ、高齢者と適切にかかわることができるようにする。

【「(3) 高齢者の生活と福祉」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉、高齢者の介護などに関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。</p>	<p>高齢者の生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割などについて思考を深めている。</p>	<p>実践的・体験的な学習活動を通して調査・研究し、高齢者と適切にかかわったり、高齢者の自立生活を支えたりするために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。</p>	<p>高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解し、高齢者の自立生活を支える家族や地域及び社会の果たす役割について認識するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p>

【「(3) 高齢者の生活と福祉」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の加齢に伴う心身の変化と特徴、高齢者の生活に関心を持ち、高齢者を肯定的にとらえ、適切にかかわろうとしている 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身の特徴の一般的变化と個人差に気付き、高齢者の生活の現状と課題について具体的に考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な高齢者への聞き取り調査などを通して、高齢者の心身の特徴や生活の現状について、まとめたり発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 加齢に伴う心身の変化と特徴や高齢者の生活実態を理解している。 高齢社会の現状と課題、高齢者福祉の基本的な理念と近年の高齢
--	---	--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状や課題，高齢者の自立生活支援の在り方などについて考えようとしている。 ・高齢者介護の心構えやコミュニケーションの在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の高齢化の特徴や居住地域の高齢化の状況を踏まえ，高齢者福祉サービスについて具体的に考えを深めている。 ・日常生活の介助についての具体的な方法や留意すべきことなどについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居住地域の高齢化の状況や福祉サービスについて，まとめたリ発表したりすることができる。 ・高齢者と適切にかかわることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・者福祉サービスの概要について理解している。 ・日常的な介助の具体的な方法や留意すべきことなどについて理解している。 ・高齢者に対する共感の大切さを理解している。
--	---	---	---

(4) 生活の科学と文化

【学習指導要領の内容】

衣食住の生活を科学的に理解させるとともに，衣食住に関する先人の知恵や文化を考えさせ，充実した衣食住の生活を営むことができるようにする。

ア 食生活の科学と文化

栄養，食品，調理などについて科学的に理解させるとともに，食生活の文化に関心をもたせ，必要な技術を習得して充実した食生活を営むことができるようにする。

【「(4) 生活の科学と文化 ア食生活の科学と文化」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
栄養，食品，調理などの食生活の科学と文化に関心をもち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	栄養，食品などについて課題を見付け，その解決を目指して思考を深め，適切に判断できる。	食生活を充実向上するために必要な食品の選択，調理，食生活の管理などの基礎的・基本的な技術を身に付けている。	栄養，食品，調理などについて，科学的に理解し，心豊かで充実した食生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(4) 生活の科学と文化 ア食生活の科学と文化」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の文化に関心をもち，人間と食べ物とのかかわりについて考えようとしている。 ・家族や自分の食生活について，栄養や健康とかがわらせて考えようとしている。 ・食生活の多様化や食環境の変化に関心をもち，調理実習・実験に取り組んでいる。 ・健康や安全に配慮した食生活について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活や食事の意義について考えている。 ・栄養素等摂取の基準や食品群別摂取量の目安について，家族や自分の食生活と関連させて具体的に考えている。 ・近年の食品の安全性について思考を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の栄養や嗜好，調理の能率，経済面などを考慮した適切な一日の献立作成ができる。 ・日本食品標準成分表を活用した食事の栄養価計算ができる。 ・調理の基礎技術を身に付けている。 ・配膳や食事のマナーを踏まえ，楽しく食事する工夫ができる。 ・健康や安全に配慮した食生活の管理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と機能，栄養素等摂取の基準や食品群別摂取量の目安を理解している。 ・主な食品の栄養的特質を食品群と関連させて理解している。 ・食品の調理上の性質を生かした調理法について理解している。 ・配膳や食事のマナーについて理解している。 ・食品の安全性にかかわる問題点などを通して，食生活と健康との関連を理解している。
---	---	---	---

イ 衣生活の科学と文化

【学習指導要領の内容】

被服材料，被服の構成，被服製作，被服整理などについて科学的に理解させるとともに，衣生活の文化に関心をもたせ，必要な技術を習得して充実した衣生活を営むことができるようにする。

【「(4) 生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
被服材料，被服の構成，被服製作，被服整理など	被服材料，被服の構成，被服整理などについて課	衣生活を充実向上するために必要な被服製作，被	被服材料，被服の構成，被服製作，被服整理など

の衣生活の科学と文化に関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断できる。	服計画、被服整理などの基礎的・基本的技術を身に付けている。	について科学的に理解し、心豊かで充実した衣生活を営むために必要な基礎的・基本的知識を身に付けている。
--------------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--

【「(4) 生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活の文化に関心を持ち、人間と被服とのかわりについて考えようとしている。 ・被服材料の性能と特徴について、着心地などかわらせて具体的に考えようとしている。 ・被服構成や縫製技術の特徴に関心を持ち、被服製作に取り組んでいる。 ・被服材料に応じた被服整理や適切な衣生活の管理について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能と着装について、家族の衣生活とかわらせて考えている。 ・用途や着用目的に合った被服材料の選択と被服管理について具体的に考えている。 ・健康と安全に配慮した衣服の調達と活用、資源・エネルギー問題や環境保全に配慮した再利用や適正な廃棄の方法などについて考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して、被服の製作ができる。 ・用途や着用目的に合った被服材料の選択や被服材料に応じた洗濯、仕上げ、保管等ができる。 ・健康、安全、環境保全などについて配慮し、衣生活の管理が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料の種類と特徴及び着心地や手入れ・保管にかかわる性能について理解している。 ・着心地のよい被服は着用目的や動作などに合った被服であることを理解している。 ・洗剤の働きと汚れが落ちる仕組み、乾式洗濯と湿式洗濯の特徴や利用上の注意について理解している。 ・資源の有効利用の観点に立った被服計画の必要性を理解している。
--	---	--	---

ウ 住生活の科学と文化

【学習指導要領の内容】

住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解させるとともに、住生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにする。

【「(4) 生活の科学と文化 ウ 住生活の科学と文化」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などの住生活の科学と文化に関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	住空間の計画、住環境の整備などについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断できる。	住生活を充実向上するために必要な住空間の計画や住生活の管理、住環境の整備などの基礎的・基本的な技術を身に付けている。	住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解し、心豊かで充実した住生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(4) 生活の科学と文化 ウ 住生活の科学と文化」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・住生活の文化に関心を持ち、住居の機能、人間と住居とのかわりについて考えようとしている。 ・家族構成、ライフステージ、生活にかかわる価値観などに応じた住空間の計画について検討しようとしている。 ・様々な生活条件をもった人々が安心して住める住環境について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想定した家族や住居を基に住居の機能や住空間と家族の暮らし方などについて考えている。 ・健康と安全に配慮した室内環境の整備、住居の計画的な維持管理、自然環境や社会環境と住生活の関連などについて考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成などに応じた住空間の計画について検討できる。 ・平面図を読み取ることができる。 ・健康に配慮した衛生的な住居や安全に配慮した室内環境の整備に必要な基礎的な技術を身に付けている。 ・よりよい住環境を整備するために調査・研究したり、発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能について理解している。 ・生活行為と住空間とのかわり、動作に必要な広さ、家具の配置や動線などについて理解している。 ・健康や安全に配慮した室内環境の整備について理解している。
--	--	--	---

エ 生活文化の伝承と創造

【学習指導要領の内容】

衣食住にかかわる生活文化の背景について理解させるとともに、生活文化に関心をもたせ、それを伝承し創造しようとする意欲をもたせる。

【「(4) 生活の科学と文化 エ生活文化の伝承と創造」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
生活文化に関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	衣食住のいずれかにかかわる課題を取り上げ、生活文化の伝承と創造という観点から思考を深めている。	衣食住のいずれかにかかわる課題を取り上げ、実験・実習を行ったり、まとめて発表したりすることができる。	心豊かな生活を営むために必要な生活文化の背景や変化を理解している。

【「(4) 生活の科学と文化 エ生活文化の伝承と創造」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の生活文化について関心をもち、生活文化の背景にある人々の願いや知恵について考えようとしている。 ・生活文化について関心をもち、衣食住にかかわる実験・実習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住のいずれかにかかわる課題を取り上げ、実験・実習を通して、生活文化の背景や伝承と創造について考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住のいずれかにかかわる課題を取り上げ、実験・実習を行ったり、生活文化の背景や伝承と創造の観点から、まとめて発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の背景にある人々の願いや知恵について理解している。 ・生活文化は社会状況や価値観の変化によって変化するものであることに気付く。
--	--	--	---

(5) 消費生活と資源・環境

【学習指導要領の内容】

家庭の経済生活、消費者の権利と責任などについて理解させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、資源や環境に配慮し、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任をもって行動できるようにする。

ア 消費行動と意思決定

消費行動における意思決定の過程とその重要性について認識させる。

イ 家庭の経済生活

家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解させ、主体的な家計管理と家庭の経済計画の重要性について認識させる。

ウ 消費者の権利と責任

消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護、消費者の責任及び生活情報の収集・選択と活用について理解させ、消費者として主体的に判断し責任をもって行動できるようにする。

エ 消費行動と資源・環境

現代の消費生活と資源や環境とのかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直し、環境に調和した生活を工夫できるようにする。

【「(5) 消費生活と資源・環境」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
消費行動と意思決定、家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費行動と資源・環境などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家庭経済と国民経済とのかかわり、消費生活の課題、資源や環境とのかかわりについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	実践的・体験的な学習活動を通して調査・研究し、自立した消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	消費行動と意思決定、家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費行動と資源・環境について理解し、適切な意思決定に基づいて、責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(5) 消費生活と資源・環境」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> 消費行動における意思決定の過程について関心をもち、資源の適切な活用とかかわらせて考えようとしている。 家庭経済と国民経済とのかかわりについて関心をもち、家庭の経済計画の重要性について考えようとしている。 消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護や責任、生活情報の収集・選択と活用について関心をもち、どのように行動したらよいか考えようとしている。 消費生活と資源や環境とのかかわりについて関心をもち、環境負荷の少ない生活の実践を目指して工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭管理における経済計画や予算生活の重要性について考えている。 消費者として主体的に判断するために消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護や責任、生活情報の収集・選択と活用について考えている。 環境に調和したライフスタイルの在り方について思考を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して検討することができる。 消費者として主体的に判断し行動するために必要な生活情報を適切に活用することができる。 資源調達から廃棄までの各段階における環境負荷について検討し、環境に調和した生活を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解している。 家庭経済と国民経済とのかかわり、家計の管理や経済計画の重要性について理解している。 消費者問題と消費者の保護、消費者の権利と責任、生活情報の収集・選択と活用について具体的な事例を通して理解している。 消費生活と資源や環境とのかかわりについて理解している。
--	---	--	---

(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

【「(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>内容の(1)～(5)までの学習の発展として「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」について関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。</p>	<p>生活の中から課題を見いだし、課題解決に向けて思考を深め、適切に判断している。</p>	<p>目標を明確にし、計画を立てて実践できる。</p>	<p>「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解している。</p>

・扱う内容によって、評価規準が異なるため、具体例は示していない。

生活技術

1 目標

人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などに関する知識と技術を体験的に習得させ，生活課題を主体的に解決するとともに，家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などについて関心を持ち，その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などについて見直し，課題を見付け，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などに関する基礎的・基本的な技術を体験を通して身に付けている。	人の一生と家族・福祉，消費生活，衣食住，家庭生活と技術革新などに関する基礎的・基本的な知識を体験を通して身に付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準

生活技術においては，学習指導要領の内容の（１），（２）などの大項目を内容のまとめりとし，これらごとに評価規準を作成した。

(1) 人の一生と家族・福祉

【学習指導要領の内容】

人の一生を生涯発達の視点でとらえ，家族や家庭生活の在り方，乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ，男女が相互に協力して，家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。

ア 生涯発達と家族

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ，青年期の課題を踏まえて，男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。

イ 乳幼児の発達と保育・福祉

乳幼児の心身の発達と生活，親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ，子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに子どもの健全な発達のために，親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

ウ 高齢者の生活と福祉

高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解させ，高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

【「(1) 人の一生と家族・福祉」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人の一生の営みとしての家族や家庭生活，乳幼児及び高齢者の生活と福祉などに関心を持ち，家族や保育・福祉の学習を自分の問題としてとらえ，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	生涯発達の視点から，青年期の課題を踏まえて，家庭生活の在り方，乳幼児及び高齢者の生活，家族・社会の果たす役割などについて課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	家族や家庭生活について調査・研究などができるとともに，交流などの実践的活動を通して，乳幼児や高齢者と適切にかかわるために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生涯発達と家族，乳幼児の発達と保育・福祉及び高齢者の生活と福祉について総合的に理解し，人の一生の営みを自分の問題としてとらえるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(1) 人の一生と家族・福祉」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> 人の一生を生涯発達の視点でとらえ，家族・家庭生活の在り方や生活設計などについて考えようとしている。 家事労働などがかかわらせて各自が担う家庭での役割について関心 	<ul style="list-style-type: none"> 自立や男女の平等と相互の協力などの青年期の課題について具体的に考え，自己の生活設計ともかかわらせながら考えを深めている。 現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化な 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などについて，具体的な事例を調査・研究したり，発表したりすることができる。 固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の考え方に立ち，各ライフステージごとの特徴と課題について理解している。 現代の家族の特徴及び家庭の機能について理解している。 乳幼児の心身の発達と
---	--	--	---

<p>をもち、男女が協力して家庭や社会を築くことを目指して、学習活動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の発達の特徴に関心をもち、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどのようにかかわったらよいかなど、保育の在り方について具体的に考えようとしている。 ・高齢者の心身の特徴と生活に関心をもち、高齢者を肯定的にとらえようとしている。 ・子どもの健やかな発達や高齢者を支える地域及び社会の福祉サービスの在り方について考えようとしている。 	<p>どを取り上げ、固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について考えを深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての意義について考え、子育てを通して得られるものについて考えを深めている。 ・現代の子どもが育つ環境の変化などについて課題を見付け、それらの原因及び解決について考え、社会全体で支援することの必要性について考えを深めている。 ・高齢者の心身の特徴の一般的な変化と個人差に気付き、高齢者の生活の実態と課題について具体的に考えを深めている。 	<p>協力して築く家族・家庭について意見交換したり、充実した人生を送るための生活設計の検討ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究や実践的な学習を通して、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流を深めることができる。 	<p>生活、親の役割と保育及び福祉について具体的に理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴と生活及び福祉について具体的に理解している。
---	---	---	---

(2) 消費生活と環境

【学習指導要領の内容】

家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、消費者として責任をもって行動できるようにする。

ア 家庭の経済と消費

家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。

イ 消費行動と環境

現代の消費生活と環境とのかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直すことができるようにする。

【「(2) 消費生活と環境」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>家庭の経済と消費、消費行動と環境などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。</p>	<p>家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費生活と環境のかかわりについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。</p>	<p>実践的・体験的な学習活動を通して調査・研究し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。</p>	<p>家庭の経済と消費、消費行動と環境について理解し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p>

【「(2) 消費生活と環境」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済生活、社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任について関心をもち、適切な意思決定や消費行動について考えようとしている。 ・消費生活と環境とのかかわりについて関心をもち、環境負荷の少ない生活について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者として主体的に判断できるようになるために、消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任について考えている。 ・環境負荷の少ない生活を目指し、具体的な事例を通して生活意識や生活様式を見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に伴う家計の管理や消費生活の課題について具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。 ・環境負荷の少ない生活を目指し、消費生活と環境とのかかわりについて検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の管理、家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解している。 ・消費生活の現状と消費者の権利と責任について理解している。 ・消費生活と環境とのかかわりについて理解している。
---	--	--	---

(3) 家庭生活と技術革新

【学習指導要領の内容】

科学技術の進展が家庭生活に及ぼす影響について理解させ、家庭生活の充実を図るためのコンピュータの活用や家庭用機器の適切な管理と活用ができるようにする。

ア 科学技術の進展と家庭生活

家庭生活の変化は科学技術の進展と大きくかかわっていることを理解させ、科学技術の家庭生活への適切な活用について考えさせる。

イ 家庭生活と情報

高度情報通信社会と家庭生活とのかかわりについて理解させ、コンピュータや情報通信ネットワークを家庭生活に活用できるようにする。

ウ 家庭生活と電気・機械

家庭用機器の機能と活用及び安全と管理について理解させ、家庭用機器を適切に取り扱うことができるようにする。

【「(3) 家庭生活と技術革新」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科学技術の進展が家庭生活に及ぼす影響、家庭生活におけるコンピュータの活用、家庭用機器の適切な管理と活用などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	科学技術の進展が家庭生活に及ぼす影響、家庭生活の充実を図るためのコンピュータの活用、家庭用機器の適切な管理と活用などについて思考を深めている。	家庭生活の充実を図るためのコンピュータの活用や家庭用機器の適切な管理と活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	科学技術の進展が家庭生活に及ぼす影響について理解し、コンピュータの活用や家庭用機器の適切な管理と活用に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(3) 家庭生活と技術革新」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進展に伴う家庭生活の変化について関心をもち、科学技術の家庭生活への適切な活用の方法について考えようとしている。 ・高度情報通信社会と家庭生活とのかかわりについて関心をもち、家庭生活におけるコンピュータや情報通信ネットワークの活用を考えようとしている。 ・身近な家庭用機器の機能と活用及び安全と管理に関心をもち、適切な取扱いについて考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮などの総合的な視点をもつて、科学技術の家庭生活への適切な活用について思考を深めている。 ・情報通信ネットワークによって収集した情報の信憑性や発信する情報が適切かどうかを判断することを通して、高度情報通信社会における家庭生活の在り方について思考を深めている。 ・身近な家庭用機器について、その機能と活用方法、安全な使い方と管理の方法など適切な取扱いを考えている。 ・環境保全や資源の有効利用の立場から、家庭用機器の適切な選択や活用について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の変化と科学技術の進展とのかかわりについて、調査研究したり発表したりすることができる。 ・コンピュータや情報通信ネットワークを家庭生活に活用するために、ソフトウェアの基本操作や情報の収集、処理、発信を適切に行うことができる。 ・実験実習などを通して、身近な家庭用機器の機能を生かした安全かつ適切な活用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の変化は、科学技術の進展と大きくかかわっていることを理解している。 ・家庭生活の変化などの具体的な事例を通して、高度情報通信社会と家庭生活とのかかわりについて理解している。 ・著作権の尊重、個人情報の保護などの情報モラルについて理解している。 ・身近な家庭用機器の機能、活用方法、安全な使い方と管理の方法について理解している。
---	--	--	---

(4) 食生活の設計と調理

【学習指導要領の内容】

栄養、食品、調理などに関する知識と技術を習得させ、充実した食生活を営むことができるようにする。

ア 家族の食生活と栄養

家族の食生活の現状と課題について考えさせ、健康と栄養とのかかわりについて理解させるとともに、健康の保持増進に配慮した食生活の工夫ができるようにする。

イ 食品と調理

食品の栄養的特質と調理上の性質について理解させ、献立作成ができるようにするとともに、調理技術の習得を図り、家族の食事を整えることができるようにする。

ウ 食生活の管理

食生活環境の変化及び食生活の安全と衛生について理解させ、健康や安全に配慮した食生活の管理ができるようにする。

【「(4) 食生活の設計と調理」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
栄養，食品，調理などの食生活の設計に関心を持ち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	充実した食生活を営むために必要な栄養，食品などについて課題を見付け，その解決を目指して思考を深め，適切に判断できる。	食生活と技術とのかかわりを考え，食生活を合理的に管理するために必要な栄養，食品，調理などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	栄養，食品，調理などについて理解し，充実した食生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(4) 食生活の設計と調理」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の食生活の現状と課題について，健康や栄養とかかわらせて考えようとしている。 ・ 食品の栄養的特質と調理上の性質などに関心を持ち，調理実習・実験に取り組んでいる。 ・ 食生活環境の変化及び安全と衛生に関心を持ち，食生活の管理の在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の食生活を振り返る中で，青年期の食生活の重要性について考えている。 ・ 家族の食生活の課題について，健康や栄養とかかわらせて思考を深め，食生活の工夫について具体的に考えている。 ・ 食品の適切な選択について，具体的に考えている。 ・ 食生活環境の変化に対応した食生活の在り方について考えを深めている。 ・ 食生活の安全と衛生について具体的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本食品標準成分表や食品群別摂取量の目安を用いて，日常の食事の栄養価計算や栄養診断ができる。 ・ 栄養価計算や栄養診断の結果を生かして，健康の保持増進に配慮した食生活の工夫ができる。 ・ 生鮮食品や加工食品の鑑別方法を踏まえ，食品を適切に選択することができる。 ・ 家族の栄養や嗜好，食費，調理の能率などを考慮した適切な献立作成ができる。 ・ 食品の調理上の性質や調理・加工による変化などを考慮した調理の基礎技術を身に付けている。 ・ 配膳や食事のマナーなどを考えた調理ができる。 ・ 健康や安全に配慮した食生活の管理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養的にバランスのとれた食事の重要性や栄養素の機能と種類，各ライフステージごとの栄養的な特徴を理解している。 ・ 栄養素等摂取の基準の考え方について理解している。 ・ 主な食品の栄養的特質を食品群と関連させて理解している。 ・ 食品の調理上の性質について，その成分の変化や食味などとかかわらせて理解している。 ・ 食品の加工と風味や保存性との関連について理解している。 ・ 調理法の要点について理解している。 ・ 食生活を取り巻く環境の変化について理解している。 ・ 食生活の安全と衛生にかかわる食品の腐敗や変敗，食中毒，食品添加物などについて理解している。
---	--	--	--

(5) 衣生活の設計と製作

【学習指導要領の内容】

被服の着装，製作，管理などに関する知識と技術を習得させ，充実した衣生活を営むことができるようにする。

ア 被服の機能と着装

被服の機能と着装について理解させ，被服計画を考えて適切に選択し，着装できるようにする。

イ 被服の構成と製作

体型や動作と被服とのかかわり及び立体構成と平面構成の特徴について理解させ，デザインに応じた適切な被服材料の選択ができるようにするとともに，製作技術の習得を図り，被服の製作ができるよう

にする。

ウ 衣生活の管理

被服材料の性能と加工，被服の管理などについて理解させ，健康や安全に配慮した衣生活の管理ができるようにする。

【「(5) 衣生活の設計と製作」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
被服の着装，製作，管理などの衣生活の設計に関心をもち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	充実した衣生活を営むために必要な被服の着装，管理などについて課題を見付け，その解決を目指して思考を深め，適切に判断できる。	衣生活と技術とのかかわりを考え，衣生活を合理的に管理するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	被服の着装，製作，管理などについて理解し，充実した衣生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【「(5) 衣生活の設計と製作」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能と着装に関心をもち，快適で合理的な衣生活について考えようとしている。 被服構成や縫製技術の特徴に関心をもち，製作計画を立てて，被服製作に取り組んでいる。 被服材料の性能と加工について，着心地などとかかわらせて具体的に考えようとしている。 被服材料に応じた被服整理や適切な衣生活の管理について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能と着用目的との関係や着装について考えている。 用途や着用目的に合った被服材料の選択と被服管理について具体的に考えている。 環境に配慮した洗濯について考えを深めている。 健康と安全に配慮した衣服の調達と活用，資源・エネルギー問題や環境保全に配慮した再利用や適正な廃棄の方法などについて考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自のライフスタイルに応じた被服計画を立てることができる。 被服を適切に選択して，よりよい着装ができる。 用途，着用目的，デザインに応じた適切な被服材料の選択ができる。 製作計画を立てて，合理的かつ能率的に被服を製作し，着用と評価ができる。 被服材料に応じた洗濯と仕上げができる。 健康・安全・環境保全などについて配慮し，衣生活の管理が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服の保健衛生的機能と社会的機能について理解している。 快適で合理的な衣生活を営むための被服計画の必要性を理解している。 体型や動作と被服とのかかわりについて理解している。 立体構成と平面構成の特徴について具体的に理解している。 被服材料の種類と性能，取扱い上の特徴及び性能の改善について理解している。 乾式洗濯と湿式洗濯の特徴や利用上の注意，洗剤の働きと汚れが落ちる仕組み，仕上げや保管の方法などについて理解している。
---	--	--	---

(6) 住生活の設計とインテリアデザイン

【学習指導要領の内容】

住居の機能，設計，管理などに関する知識と技術を習得させ，充実した住生活を営むことができるようにする。

ア 家族の生活と住居

住居の機能，家族の生活と住空間及び住環境と地域社会について理解させ，快適な住生活と周囲の環境や地域社会とのかかわりについて考えさせる。

イ 住居の設計とインテリア計画

快適で機能的な住生活を営むために必要な条件について理解させ，家族の形態や暮らし方を想定した住居の平面計画やインテリア計画ができるようにする。

ウ 住生活の管理

住居の選択と維持管理及び住居の安全と衛生について理解させ，健康や安全に配慮した住生活の管理ができるようにする。

エ 生活と園芸

草花や野菜の栽培と利用に関する基礎的な知識と技術を習得させ，園芸を用いて生活環境を豊かにする工夫ができるようにする。

【「(6) 住生活の設計とインテリアデザイン」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
住居の機能，設計，管理などの住生活の設計に関心を持ち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	充実した住生活を営むために住居の機能，設計，管理などについて課題を見付け，その解決を目指して思考を深め，適切に判断できる。	住生活と技術とのかかわりを考え，住生活を合理的に管理するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	住居の機能，設計，管理などについて理解し，充実した住生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている

【「(6) 住生活の設計とインテリアデザイン」の評価規準の具体例】

<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能，住空間や住環境について関心を持ち，様々な人々が安心して住める街づくりについて考えようとしている。 ・快適で機能的な住生活を営むために必要な条件に関心を持ち，住居の平面計画やインテリア計画に取り組んでいる。 ・住居の安全と衛生などについて関心を持ち，住生活の管理の在り方について考えようとしている。 ・生活環境と園芸のかかわりについて関心を持ち，園芸の利用について具体的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能や生活行為と住空間などについて考えている。 ・住環境をよりよくするために周囲の環境や地域社会とのかかわりについて考えている。 ・様々な家族形態やライフスタイルを想定した平面計画を具体的に考えている。 ・住居の選択と計画的な維持管理，健康や安全に配慮した住生活の管理について考えを深めている。 ・園芸を利用して生活環境を豊かにするための工夫を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図を読み取ることができ，住居の平面計画が表現できる。 ・美しく快適で機能的な室内空間を実現させるインテリア計画ができる。 ・健康や安全に配慮した住生活の管理ができる。 ・草花や野菜の栽培と利用に関する基礎的な技術を身に付け，生活環境を豊かにすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能，家族の生活と住空間とのかかわり，住環境や地域社会との関連について理解している。 ・住居の平面計画やインテリア計画に必要な条件や要素などについて理解している。 ・住居を選択する際に考慮すべき事項について理解している。 ・住居の計画的な維持管理の必要性について理解している。 ・住居の安全と衛生について理解している。 ・草花や野菜の栽培と利用に関する基礎的な知識を身に付けている。
---	--	---	--

(7) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

【「(7) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容の(1)～(6)までの学習の発展として「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」について関心を持ち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	生活の中から課題を見いだし，課題解決に向けて思考を深め，適切に判断している。	目標を明確にし，計画を立てて実践できる。	「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解している。

・扱う内容によって，評価規準が異なるため，具体例は示していない。

第4 単元の評価に関する事例

家庭総合

ここでは、「家庭総合」における単元「(2)子どもの発達と保育・福祉」(18時間)のうち、小単元として「イ 親の役割と保育」を取り上げて、評価に関する具体的な事例を紹介する。

単元「(2)子どもの発達と保育・福祉」では、ア 子どもの発達、イ 親の役割と保育 ウ 子どもの福祉について、相互の関連を図って指導することにより、単元の目標である「子どもの発達と保育、子どもの福祉などについて理解させるとともに、子どもの健全な発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について認識させ、保育への関心をもたせる。」の実現を目指している。

特に、小単元「イ 親の役割と保育」では、子どもの健全な発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割などについて、生徒自身が深く考え、認識することができるようにすることが重要であり、ここでは、事例研究やミニ討論会などを取り入れるなどの学習指導を工夫した事例を取り上げた。

小単元名 「親の役割と保育」(8時間)

1 小単元の目標

親の役割と子どもの人間形成及び親の保育責任とその支援について理解させ、子どもを生き育てることの意義について考えさせるとともに、家庭における親の役割の重要性について認識させる。

単元の指導計画

(総授業時数 18時間)

ア 子どもの発達	8時間
イ 親の役割と保育	8時間
(ア) 親の役割と子どもの人間形成	
ビデオ視聴と意見交換	1時間
ケーススタディ	2時間
(イ) 親の保育責任とその支援	
新聞やインターネットを活用した事例研究	2時間
ワークシートを利用した支援策の整理	1時間
(ウ) 子どもを生き育てることの意義	
インタビュー結果を活用したミニ討論会	2時間
ウ 子どもの福祉	2時間

2 小単元の評価規準

【(2)子どもの発達と保育・福祉、イ 親の役割と保育(8時間)】

*小単元ア、ウは省略

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容ごとの ま評と ま規 り準	子どもの発達と保育、子どもの福祉など、子どもの健全な発達と環境とのかかわりに関心を持ち、子どもと適切にかかわろうとしている。	子どもの心身の発達や生活と遊び、親の役割と子どもの人間形成などについて、現代の家庭や地域の生活を見つめて課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	実践的・体験的な学習活動を通して調査・観察・研究し、子どもと適切にかかわることができたり、子どもの健全な発達を支援するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	子どもの発達と保育、子どもの福祉などについて理解し、子どもの健全な発達を支える親や社会の果たす役割について認識するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
小単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の「愛着」の形成や子どもの人間形成にかかわる親の役割について考えようとしている。 ・親への社会的支援の在り方や支援策について考えようとしている。 ・子どもを生き育てることの社会的意義や子育てを通して得られるものについて考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の重要性と子どもの人間形成について、親としての態度などを考えている。 ・育児不安や児童虐待などの事例を踏まえ、それらの原因及び解決を考えている。 ・子どもを生き育てることの意義を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究やロールプレイングなどを通して、子どもに対する親の働きかけの方法や親としての態度などをまとめたり、発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間形成の基礎となる幼児期は、親による働きかけが重要であることを理解している。 ・親が第一義的な保育責任を果たすための社会的支援の在り方や支援策について理解している。 ・子育てを通して親自身も人間的に成長することに気付いている。

3 指導と評価の計画

小単元イ(ア)～(ウ)の指導計画から、単位時間における指導目標を明確にし、具体的ように設定している。示された評価規準の具体例は、「おおむね満足できると判断される」た。
(注)ペーパーテストについては、

題 材	ね ら い	学 習 活 動	時 間	関心・意欲・態度
(ア)親の役割と子どもの人間形成	<p>人間形成の基礎を培う乳幼児期の子どもと親とのかかわりに関心をもつ。</p> <p>乳幼児の保育における親の役割の重要性について理解する。</p> <p>子どもの発達段階に応じたかかわり方を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ビデオ（胎児期から乳幼児期までの親子の触れ合いの記録）視聴を通して、親が子どもにどのような思いをもち、どのようにかかわっているかを知り、乳幼児期の親の働きかけの重要性について考える。 ケーススタディを通して、親のかかわり方を考える。 	1	<p>乳幼児と親とのかかわりについて、関心をもってビデオを視聴している。</p> <p>(VTR視聴記録(1)(5))</p>
			2・3	<p>子どもの発達段階に応じた親のかかわり方について、自分とかわらせて考えようとしている。</p> <p>(ワークシート1(1))</p>
(イ)親の保育責任とその支援	<p>保育の第一義的責任は親にあることを理解する。</p> <p>親が保育責任を果たすためには、周囲の協力や働きかけが必要であることを理解することができる。</p> <p>現在の社会の支援策について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新聞や雑誌、インターネットなどから子育てに関する記事を調べワークシートにまとめておく。 調べた記事を、子育ての楽しさ、育児不安、虐待などの内容別に整理する。それらの背景や課題などについて意見交換をし、次時に発表する事例を決める。 グループごとに、親の保育責任や周囲や地域の支援の必要性について意見をまとめ、発表する。 各グループの発表を聞きながら相互評価をする。 ワークシートに整理することを通して社会の支援策を理解し、支援の在り方について考える。 	4	<p>子育てに関する今日的な課題について関心をもち具体的に把握しようとしている。</p> <p>(ワークシート2(1))</p>
			5	<p>グループの発表を聞き、親の保育責任やその支援の在り方について考えようとしている。</p> <p>(ワークシート3(1))</p>
			6	
(ウ)子どもを生み育てることの意義	<p>子どもを生み育てることの意義を考え、子育てを通して得られるものについて考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、子育て中の人に子育ての楽しさや苦労などについてインタビューしておく。 インタビュー結果を引用して、「子どもを生み育てることの意義」についてミニ討論会をする。 	7・8	<p>インタビューを通して子どもを生み育てることの意義を考えようとしている。(インタビュー用紙)友人の意見を聞き、自分にとっての子育ての意義をまとめようとしている。(ミニ討論会のまとめ(2))</p>

な学習活動を想定して、「題材の評価規準」をより具体化した「学習活動における具体的評価規準」を観点ごとに次の状況（B）を表している。また、どのような評価方法を選択し、評価規準と組み合わせたのかが分かるようにした。その授業時間中に実施するのではなく、ある程度の内容のまとめりについて実施することなどが考えられる。

学習活動における具体的評価規準			評価方法等
思考・判断	技能・表現	知識・理解	・教師の評価補助簿（例10）
<p>子どもの表情や発声などから、その時々欲求や状態を読み取り適切に対応することの重要性について考えている。 （VTR視聴記録(2)(3)）</p>		<p>特に乳児期には、親の働きかけや子どもとの応答関係の繰り返しにより愛着関係が形成されることに気づき、その大切さを理解している。 （VTR視聴記録(4)）</p>	<p>・VTR視聴記録（例1）</p>
<p>ケーススタディにおいて、子どもの人間形成にかかわる親の接し方について具体的に考えている。 （ワークシート1(2)） （ペーパーテスト問1(1)(2)）</p>	<p>ケーススタディを通して、子どもへの接し方や親としての態度をまとめている。 （ワークシート1(2)）</p>	<p>子どもの発達段階を理解した親の働きかけが重要であることに気付いている。 （ワークシート1(3)） （ペーパーテスト問1(3)）</p>	<p>・ワークシート1「子どもの発達と親の態度について考えよう」（例2） ・ペーパーテスト問1（例3）</p>
<p>調べた記事を基に、現代の子育ての背景や課題について考えている。 （ワークシート2(1)） （2）</p>	<p>調べた記事についてワークシートにまとめることができる。 （ワークシート2(1)） （2）</p>		<p>・ワークシート2「子育てについて調べてみよう」（例4）</p>
<p>事例研究を通して、親の保育責任やそれを支える周囲や地域の支援の必要性について考えている。 （ワークシート3(2)）</p>		<p>保育の第一義的な責任は、親にあることを理解している。 （ワークシート3(2)）</p>	<p>・ワークシート3「事例研究発表のまとめ」（例5）</p>
<p>社会における支援の在り方やどんな支援策が必要かについて考えている。 （ワークシート4(3)）</p>		<p>親が保育責任を果たせるような社会の支援の在り方や支援策について理解している。 （ワークシート4(1)(2)） （ペーパーテスト問2）</p>	<p>・ワークシート4「社会における子育て支援」（例6） ・ペーパーテスト問2（例7）</p>
<p>子育ての意義を、私的な側面と社会的な側面の両面から考えている。 （ミニ討論会のまとめ(3)）</p>	<p>インタビュー結果から子育ての意義をまとめたり、発表したりすることができる。 （ミニ討論会のまとめ(1)）</p>	<p>子育てを通して親自身も人間的に成長することに気付いている。 （ミニ討論会のまとめ(3)）</p>	<p>・インタビュー用紙（例8） ・ミニ討論会のまとめ（例9）</p>

【参考資料】

〔例1〕VTR視聴記録

(ア) 親の役割と子どもの人間形成(1限)において、(1)(5)から「関心・意欲・態度」を、(2)(3)から「思考・判断」を、(4)から「知識・理解」を評価するVTR視聴記録の例である。

VTR視聴記録

年 組 番氏名

テーマ「胎児期から乳児期までの親子の触れ合いの記録」

(1) ビデオで見た内容についてまとめよう。 **関心・意欲・態度**

(2) 生まれる以前から、父親や母親が子どもにかかわることは、親自身や子どもにとってどのような意味があるかまとめよう。 **思考・判断**

(3) 赤ちゃんの表情や発声などの子どもの発するサインに対して、親はどのように対応していたのかまとめよう。 **思考・判断**

(4) 「愛着」と呼ばれる心の絆は、どのようにして築かれるのか考えてみよう。 **知識・理解**

(5) VTRを視聴しての感想をまとめよう。 **関心・意欲・態度**

【例2】ワークシート1 「子どもの発達と親の態度について考えよう」

(ア)親の役割と子どもの人間形成(2・3限)において,(1)から「関心・意欲・態度」を,(2)から「思考・判断」及び「技能・表現」を,(3)から「知識・理解」を評価するねらいのワークシートの例である。

「子どもの発達と親の態度について考えよう」

年 組 番氏名

【場面設定】

ある休日のデパートでのできごと。3歳くらいの男の子が手足をばたつかせながら、「ちがうもん。同じじゃないもん。欲しいよ～。買って～！」と泣き叫んでいる。近くにいる親は「同じようなものをいくつもあるじゃないか……」このやりとりが先ほどから続いている。

(1)上の場面設定の時、次の人はどのように感じているか、考えてみよう。 **関心・意欲・態度**

子どもはどんな思いでいるのか、想像してみよう。

親は泣きわめいている子どもを見て、どんな気持ちでいるか想像してみよう。

その場にいたあなたはどんなことを思うか、想像してみよう。

(2)子どもの気持ちをそれぞれ考えながら、グループで登場人物や配役を決め、セリフを考えてこの続きのドラマを作り、発表しよう。 **思考・判断** , **技能・表現**

(3)まとめ **知識・理解**

2,3歳児と4,5歳児の社会性の発達についてノートや教科書を参考にしてみよう。

各グループの発表を聞き、2,3歳児の発達段階を踏まえた親の対応の仕方についてまとめよう。

〔例3〕ペーパーテスト 問1

(ア)親の役割と子どもの人間形成(2・3限)において,(1),(2)で「思考・判断」を,(3)で「知識・理解」を評価するねらいのテストの例である。

・次のような場面設定の時,(1)~(3)に答えなさい。

ある休日の午前中,あなたは居間のソファでくつろいでいました。そこに,次女のナツコ(小学3年生)が「新聞の漫画読ませて!」とやってきました。
やがて漫画を読み終えると,「ア~ア,お姉ちゃんなんかいなければいいのになあ~」と,ため息混じりに言うのが聞こえました。

(1) ナツコのこの言葉を聞いて,あなたがナツコの親だったら,どのように言いますか。
下の欄に書きなさい。 **思考・判断**

(2) あなたが(1)のように言ったのは,どういう理由からですか。下の欄に書きなさい。
思考・判断

(3) この場面の背景として下記のようなナツコちゃんの要求と親の事情がありました。あなたはその後,どのようにこの問題を解決しますか。ナツコの親の立場で考えなさい。
知識・理解

ナツコちゃんが,今乗っている自転車はお姉ちゃんからのお下がりです。友達には一人っ子や妹や弟のいる子が多く,新しい自転車を買ってもらった子どももいます。新しい自転車が欲しくてたまりません。
あなたの家には,ナツコに新しい自転車を買ってあげる余裕が無いわけではありませんが,家族の買い物の優先順位を考えると,まだまだ使える自転車なのに・・・という気持ちがあります。

(例4)ワークシート2 「子育てについて調べてみよう」

(イ)親の保育責任とその支援についてより主体的に学習するため自分たちで今日的な課題を把握するワークシートである。(1) で「関心・意欲・態度」を、(1) と(2) で「思考・判断」を、(1) と(2) で「技能・表現」を評価することをねらいとしている。
○内は、評価の視点を示している。

子育てについて調べてみよう

年 組 番 氏名

(1) 記事調べ

子育ての楽しさや育児不安、虐待など、子育てについての記事を新聞や雑誌、インターネットなどから調べてみよう。記事や資料などは別紙に貼り付ける。(次時までにはやっておく)

〔記事のタイトルと出典〕 **関心・意欲・態度 技能・表現**

〔記事を選んだ理由〕

子育てについての今日的な課題に関心をもって記事を調べることができたか、また、指示された項目に沿って的確にまとめて書かれているかを評価する。

〔記事の要点〕

〔記事についての意見や感想〕 **思考・判断**

記事の内容を読みとって、その背景や課題について述べられているかを評価する。

〔記事の関連事項：知っていることや調べたこと〕 **思考・判断**

子育てについての社会的な取組など、具体的な補足事項が描かれているかを評価する。

(2) グループでの意見交換

グループの人が調べてきた記事の内容(子育ての楽しさ、育児不安、虐待など) **思考・判断**

それぞれの記事に表れている今日的な課題をとらえて整理できているかを評価する。

の内容の背景や課題について、意見交換を通して分かったことや意見 **思考・判断**

現代の子育ての背景や課題について述べられているかを評価する。

グループで発表する内容 **技能・表現**
事例

背景や課題

発表の要点がまとめられているかを評価する。

〔例5〕 ワークシート3 「事例研究発表のまとめ」

(イ) 親の保育責任とその支援(5限)における「事例研究発表のまとめ」の例である。(1)において、「関心・意欲・態度」を、(2)のにおいて「知識・理解」を、(2)のにおいて「思考・判断」を評価することをねらいとしている。

事例研究発表のまとめ

年 組 番 氏名

- (1) 各グループの発表内容をまとめ、次の点について採点してみよう。 **関心・意欲・態度**
 記事の概要が分かりやすく説明されていたか
 適切な協力や働きかけの具体的な方法が示されていたか
 発表のしかたはよかったか

各項目とも4点満点で採点。

(4:とてもよい 3:よい 2:あまりよくない 1:よくない)

コメントは、よかったところなどを具体的に書こう。

発表番号	事例の内容				コメント
1					
2					
3		他の班の発表を聞いて、採点やコメントが書かれているかを評価する。			
7					
8					

- (2) 親の保育責任及び周囲や地域の協力について、自分たちで発表をしたり、他のグループの発表を聞いたりして分かったことや考えたことをまとめよう。

親の保育責任について **知識・理解**

周囲や地域の協力について **思考・判断**

親の保育責任の重要性と周囲や地域の協力の大切さが認識されているかを記述内容から評価する。

〔例6〕ワークシート4 「社会における子育て支援」

(イ)親の保育責任とその支援(6限)において、社会における子育て支援についてまとめるためのワークシートである。(1)からは「思考・判断」を、(1) (2)の記述からは「知識・理解」を、(3)の記述からは「思考・判断」を評価することをねらいとしている。

社会における子育て支援

年 組 番氏名

子どもを育てる親に、社会はどのような支援をしているのだろうか。現状の施策をまとめ、これからの支援の在り方について考えてみよう。

(1) 国の取組や子育て支援にかかわる法律

「エンゼルプラン」の誕生、そして「新エンゼルプラン」へ **知識・理解**
エンゼルプランはなぜ作られたか。

エンゼルプランと新エンゼルプランの違いは何か

【エンゼルプランの主な内容】平成6年策定

子育てと仕事の両立支援
家庭における子育て支援
子育てのための住宅及び生活環境の実現
ゆとりある教育の実現と健全育成
子育てコストの削減

【新エンゼルプランの主な内容】平成11年策定

保育サービス等子育て支援サービスの充実
仕事と子育ての両立のための雇用環境の整備
働き方についての固定的な性別役割分業や職場優先の企業風土の是正
母子保健医療体制の整備
地域で子どもを育てる教育環境の整備
子どもたちがのびのび育つ教育環境の実現
教育に伴う経済的負担の軽減
住まいづくりや町づくりによる子育ての支援

子育て支援にかかわる主な法律 **知識・理解**

- ()法..... 男女の人権の尊重、社会における制度等についての配慮政策等の立案及び決定への共同参画、家庭生活における活動と他の活動の両立、国際協調
- ()法..... 募集・採用・配置・昇進での女性差別の禁止
教育訓練・福利厚生・定年・退職・解雇についての差別禁止
妊娠中、出産後の健康診断等の時間確保等の義務化
- ()法..... 育児休業(1才未満の子どもを持つ父親・母親)
勤務時間短縮
看護休暇制度の導入、転勤への配慮など
- ()法..... 生理休暇、産前6週間、産後8週間の休暇
育児時間の設定など
- ()法..... 妊産婦・配偶者への妊娠・出産・育児の保健指導、
母子健康手帳の交付など

(2) 地域や各自治体の取組

地域の取組の必要性をまとめよう。 **知識・理解**

--

前時のグループでの意見交換や発表などを踏まえて、自分の住む地域ではどのような子育て支援の取組があるかまとめよう。 **知識・理解**

名 称	
目 的	
具 体 的 な 内 容	

(3) これからの子育て支援の在り方について、授業で学習した内容を踏まえて、具体的な意見や提案を述べよう。 **思考・判断**

--

〔例7〕ペーパーテスト 問2

(イ)親の保育責任とその支援(6限)において、親が保育責任を果たせるような社会の支援の在り方や支援策について「知識・理解」を評価することをねらいとしたペーパーテストの例である。

問2 平成6年にエンゼルプランが、平成11年には新エンゼルプランが策定され、具体的な対策が進められている。このような子育て支援策の社会的背景について述べなさい。

知識・理解

〔例8〕インタビュー用紙

子育てについてのインタビュー **関心・意欲・態度**
年 組 氏名

インタビューに答えてくださった方のお名前 ()

子どもの人数・子どもの年齢() 自分との関係 ()

共通の質問項目	インタビュー記録
(1) 自分の子どもを初めて抱いた時はどのように感じましたか。	
(2) 子育てをして楽しかったことは？	
(3) 子育てをしてつらかったことは？	
(4) 子育てを経験することによりあなた自身は変わりましたか？	
(5) 子どもは社会にとってどんな役割を果たしていると思いますか？	
自分で考えた質問項目	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分にとっての子育ての意義を考えるため、共通の質問項目以外に相手との会話をより深め、発展させるよう工夫した質問項目が考えられ、インタビューを進めているかを評価する。 </div>	

インタビューをしての感想

子どもを生き育てることの意義や子育てを通して得られるものについて、子育てを自分自身の生活設計と合わせて考えてみたり、社会支援の在り方の重要性をふり返ったりして感想をまとめていくかを評価する。

【例9】ミニ討論会のまとめ

(ウ) 子どもを育てることの意義 (7・8限)において、(1)で自分の意見をまとめたり、討論会で発表したりするという「技能・表現」を、(2)で他者の意見のまとめから「関心・意欲・態度」を、(3)で子育ての意義を考え、親自身の成長に気付くという「思考・判断」、「知識・理解」を評価するねらいのミニ討論会のまとめ用紙の例である。自己評価は教師の指導の改善に生かすものとする。

ミニ討論会のまとめ	年 組 番 氏名
<p>(1) それぞれのテーマについてインタビューの結果などを参考にして自分の考えをまとめ、討論会の発言原稿を作成しよう。 技能・表現</p> <p>(2) 次に討論を聞き、友だちの意見や発表で、印象深かった内容を記録しよう。 関心・意欲・態度</p>	
テーマ	親は子育てをどのように感じているだろうか。 ➡ 自分の人生にとって子育てって何だろうか。
(1)自分の意見	インタビューでの聞き取りを基に、テーマに沿って自分の意見をまとめ、討論会で伝えようとしているか文面から評価する。
(2)他者の意見	他者の発表意見を熱心に聞き取り、自分の考えが深められる内容について記録しているか評価する。
<p>(3) 今までの授業を振り返り、「子育ての意義」を私的側面と、社会的側面からまとめてみよう。 思考・判断 , 知識・理解</p>	
私的側面，社会的側面を指示することにより，子育てを通して親自身も成長することに気付いたり，社会にとって子育ての重要性を認識したりしているかについて分析する。	
自己評価	
A：とても良くできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった インタビューの目的を理解して、話ができたか。 A B C D 答えて下さった方のお話に十分耳を傾けられたか。 A B C D ミニ討論会で、テーマに応じて自分の意見をわかりやすく話すことができたか。 A B C D 他の友人の発表をしっかりと聞くことができたか。 A B C D	

【例10】教師の評価補助簿 その1

毎時の評価を記録する補助簿である。下に示す欄の他に、生徒の自己評価や教師の観察記録などの欄を加えることにより、一人一人の生徒の学習状況をより具体的にみとることができ、個に応じた指導や指導方法の工夫改善に生かすことができる。

題材	(ア)親の役割と子どもの人間形成							(イ)親の保育責任とその支援						(ウ)子どもを生み育てることの意義								
	1限			2・3限				4限			5限			6限		7・8限						
観点	関	思	知	関	思	技	知	関	思	技	関	思	知	思	知	関	思	技	知			
	評価方法	VTR 視聴記録 (1)(5)	VTR 視聴記録 (2)(3)	VTR 視聴記録 (4)	ワークシート 1(1)	ワークシート 1(2)	ペーパーテスト 問1(1)(2)	ワークシート 1(3)	ワークシート 2(1)	ワークシート 2(1)(2)	ワークシート 2(2)	ワークシート 3(1)	ワークシート 3(2)	ワークシート 3(3)	ワークシート 4(1)(2)	ワークシート 4(2)	ペーパーテスト 問2	インタビュー 用紙	ミニ討論会の まとめ(2)	ミニ討論会の まとめ(3)	ミニ討論会の まとめ(1)	ミニ討論会の まとめ(3)
1																						
2																						
3																						
4																						

↑ 生徒番号

「思考・判断」、「知識・理解」、「知識・理解」のように複数の評価項目がある場合は、それぞれ評価し、項目ごとに重み付けをして評価を算定する。
(35ページ参照)

〔例11〕教師の評価補助簿 その2

座席表を利用した教師の評価補助簿例

(主にグループ活動の際に、各生徒の関心・意欲・態度や特記事項等を観察・記録する)

項目名 親の役割と保育	()年()組 月 日 限																								
<div style="border: 1px solid black; width: 150px; margin: 0 auto; padding: 5px; display: inline-block;">教卓</div>																									
1班	2班																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前A</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前B</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">名前C</td> <td style="text-align: center;">名前D</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> </table>	名前A	名前B			特記	特記	名前C	名前D			特記	特記	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">名前</td> <td style="text-align: center;">名前</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> </table>	名前	名前			特記	特記	名前	名前			特記	特記
名前A	名前B																								
特記	特記																								
名前C	名前D																								
特記	特記																								
名前	名前																								
特記	特記																								
名前	名前																								
特記	特記																								
3班	4班																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">名前</td> <td style="text-align: center;">名前</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> </table>	名前	名前			特記	特記	名前	名前			特記	特記	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">名前</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">名前</td> <td style="text-align: center;">名前</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記</td> <td style="text-align: center;">特記</td> </tr> </table>	名前	名前			特記	特記	名前	名前			特記	特記
名前	名前																								
特記	特記																								
名前	名前																								
特記	特記																								
名前	名前																								
特記	特記																								
名前	名前																								
特記	特記																								

4 観点別評価の進め方

(1) 関心・意欲・態度

評価の工夫

ここでは、乳幼児期の重要性と親の役割、親への社会的支援、子どもを生き育てることについて関心をもっているか、進んで学習活動に取り組み、意欲的、積極的に自分の問題や課題としてとらえようとしているかなどについて評価する。

具体的には、ビデオ視聴、ケーススタディ、新聞やインターネットを活用した事例研究、ワークシートを利用した支援策の整理、インタビュー結果を活用したミニ討論会などの学習活動への取組状況を、教師による観察や、ビデオ視聴記録、ワークシート、インタビュー記録、相互評価、自己

評価などの記述から多面的に評価することとした。

「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される生徒の具体的な状況の例

VTR視聴記録に、乳幼児と親とのかかわりについて具体的に読み取った内容が明確に記述されており、自分の問題としてとらえている。

ワークシートに、親の立場と子どもの立場の両方に立って、その解決策を具体的に考えていることが記述されている。

子育てに関して目的に応じた記事を探すことができ、ワークシートに、記事に現れている今日的な課題についての自分の考えが記述されている。

事例研究発表のまとめにおいて、親の保育責任やその支援の在り方を考えるというねらいを理解して、その観点から採点やコメントが明確に記述されている。

インタビュー用紙の質問項目の例以外に、子育ての意義について考えを深めるよう、自分で考えた質問項目の欄に発展的な質問を書き込み、インタビューを実施している。

討論会で他者の発表を聞き、自分の意見の中になかった事柄について気づき、子育ての意義について明確に記述されている。

(2) 思考・判断

評価の工夫

ここでは、乳幼児期の重要性や、子どもの人間形成にかかわる親としての接し方について考えているか、子育てに関する課題から、周囲の協力や働きかけの在り方について具体的に考えているか、更に事例研究を通して親への支援の在り方について理解を深めたり、子を生み育てることの意義を考えているかなどについて評価する。

具体的には、ビデオ視聴の感想や気付いたこと、ワークシートのまとめ、各グループの発表を聞き相互評価するなどによって、現代社会における課題を見出し、その解決を目指して思考を深めているかを評価することとした。

「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される生徒の具体的な状況の例

VTR視聴記録に、妊娠中から親がともに子育てにかかわることによって、子育てに一層の喜びを感じることができることや、乳幼児期の保育の重要性が記述されている。

ワークシートに、子どものその場の行動だけから一方的に対応するのではなく、その背景を探り、子どもの発達段階に応じた接し方を考え、工夫して記述されている。

子育てに関する記事を整理・分類することやグループの意見交換を通して、子育てにおける多様な課題やそれらの背景に気づき、具体的に記述されている。

自分のグループや他のグループの発表を聞くことで、子育てには親だけでなく周囲や地域の働きかけが大切であることに気づき、なぜ大切なのかなど自分自身の考えが明確に記述されている。

現状の支援策を踏まえた上で、現在やこれからの社会の支援策について、様々な観点から考え、要望や提案などが具体的に記述されている。

子育ての意義について（ア）親の役割と子どもの人間関係、（イ）親の保育責任とその支援についての学習を振り返ったり、インタビューの回答や討論の意見などから例を挙げたりして、私的な側面と社会的な側面の両面から考えをまとめている。

(3) 技能・表現

評価の工夫

ここでは、事例について話し合ったり、子どもに対する親の働きかけ方等についてまとめ、発表できているかについて評価する。

具体的には、ケーススタディを通して親としての態度等をまとめて発表したり、子育てにかかわる事例についての調査・研究結果等について意見交換をしたり、グループの意見をまとめて、工夫して発表しているかどうかについて評価することとした。

「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される生徒の具体的な状況の例

ワークシートに、子どもの気持ちや親としての態度が、ドラマの登場人物のセリフや行動として具体的に記入されている。

自分の調べた記事についてねらいに沿ってまとめてあり、また、発表内容が他者にわかりやすいように工夫して記述されている。

インタビューの回答や、前時までの学習を生かし、各テーマについて自分の意見をまとめ、自分の人生にとっての子育ての意義を討論できるように記述されている。

(4) 知識・理解

評価の工夫

ここでは、子どもと適切にかかわることができ、子どもの健全な発達を支援するために必要な基礎的・基本的知識を身に付けているかを評価する。

具体的には、乳幼児期の「愛着」の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解しているか、また、子育ての第一義的な責任は親にあり社会的な自立のために親がなすべきことについて理解し

ているか、更に、親がその保育責任を果たせるような社会の支援の在り方、支援策について理解しているか、などについて評価することとした。

「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される生徒の具体的な状況の例

乳幼児期の親子の応答関係による「愛着」の形成がその後の対人関係の発達の基礎となることを理解して、視聴記録をまとめている。

社会的な自立のためには、親として子どもの発達に応じた適切な働きかけをすることが、重要であることを理解してワークシートをまとめている。

グループ発表のさまざまな事例を通して子どもに対する第一の保育責任は親にあることを理解し、ワークシートにまとめている。

国や地域の支援策の必要性や目的を理解し、具体的な支援の内容について正しく把握して、ワークシートにまとめている。

子育てを通して親自身も成長することを具体的な例を挙げてまとめている。

(5) 観点(1)から(4)にかかわる指導上の留意点

教科の特質上、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への対応が遅れないよう、毎時間の授業における活動状況を充分把握し、その場で一人一人の生徒に応じた助言や具体例の提示などを行ったり、グループへの取組に、積極的に参加するように働きかけたり、事前学習の状況からグループ編成を工夫したりすることなどが重要である。

自分の成長の中で、親や周囲の人がどのように接してくれたことがあったかなど、自らの経験を思い出してみるように促す。

親の保育責任や社会の支援に関心が低い生徒には、生徒が興味・関心を示しそうな記事や身近な例を用いて、子育てを自分の発達課題としてとらえられるように助言する。

事例調査やインタビューなどの進行状況をワークシートを提出させることで把握し、事前に個別指導をしておく。

話し合いが円滑に進まないグループには、着眼点を示し、意見交換の進め方を助言する。

5 観点別評価の総括

(1) 題材又は単元ごとの観点別評価及びその総括について

各題材や単元で身に付ける資質や能力を明確にし、題材又は単元ごとの評価計画を作成して具体的な評価規準を設定する。その際、題材又は単元によって重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり、重み付けをしたりするとともに、観点の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなど多角的に評価することが必要である。

また、一つの評価規準に対して複数の評価方法がある場合には、あらかじめ各評価方法による評価規準のとりまとめ方法についても定めておく必要がある。

題材又は単元ごとの観点別学習状況の評価は、次のような手順で行う。

題材又は単元の単位時間における具体の評価規準に照らして、毎時の授業における観察、学習カードの記入状況、ペーパーテストなどにより、A、B、Cで観点別の評価を行う。

で行った毎時の授業における評価のA、B、Cに点数を当てはめるなどして観点別に総括する。その際、観点ごとの合計点又は平均点について、「満点の % 以上であればAとする」などと定めておくことにより、題材又は単元の観点別学習状況の評価を算定することができる。

本事例における観点別学習状況の評価の重み付けは、以下のとおりとした。

(例)

観点							合計
ア関心・意欲・態度	20%	10%	10%	20%	20%	20%	100%
イ思考・判断	10%	30%	10%	10%	20%	20%	100%
		(10% + 20%)					
ウ技能・表現	40%	40%	20%				100%
エ知識・理解	20%	30%	10%	20%	20%		100%
		(15% + 15%)		(10% + 10%)			

* イ思考・判断、エ知識・理解 については、評価項目が複数あるので、それぞれの評価について()内の重み付けをする。

(2) 学期及び学年の各科目の観点別学習状況の評価

(1)と同様の方法で、題材又は単元ごとの観点別学習状況の評価を行い、四つの観点ごとに総括して、学期ごとの観点別学習状況の評価とする。その際、補充指導の成果を生かして修正するなど生徒の進歩の状況について配慮する必要がある。

この他にも、観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。